

保育士養成専門学校生が重視する家庭支援の 学びと取り組みについて

室 谷 雅 美¹⁾・新 川 泰 弘²⁾・前 田 雄 一³⁾

Learning and Working on Family Support that Students in Childcare Teacher Training Schools put Importance on

The purpose of this paper is to reveal how students in childcare teacher training schools think about learning and working on family support. A questionnaire was conducted and a chi-square test was executed on the following five items: how students think about family support and its relationship to: (1) their year level; (2) their work experience; (3) whether a family member is raising children; (4) experience helping in childcare; and (5) experience in raising their own children. The results revealed that students in childcare teacher training schools think that they need to learn to understand children and coordinate parent-child relationships. They thought that they needed to work on consultation support, providing a place for interaction and providing opportunities to learn through information sharing.

As a result of this study, it showed that support for coordinating children's understanding and parent-child relationships should be learned, and It became clear what should be practiced as a childcare teacher in family support is consultation assistance, provision of exchange opportunities and information sharing and mutual learning.

1. 研究の背景

2017(平成29)年3月31日に告示、改定された新「保育所保育指針」には、「保育所保育の専門性を生かした子育て支援を積極的に行うよう努めること」が明記され、保育所においては、専門性を有する保育士による子育て支援が求められるとともに、保育所を利用している保護者以外の地域の子育て中の親たちへの支援などを行う努力義務も謳われている。

改定の方向性として、「子育て支援」の章が新設され、保護者・家庭及び地域と連携した子育て支援の必要性が説かれ、保護者と連携して「子ど

もの育ち」を支えるという視点に立って、子どもの育ちを保護者とともに喜び合うことが重視されている。保育所が行う地域における子育て支援の役割が重要になっていることから、これまで記述されていた「保護者に対する支援」が、今回の改定で「子育て支援」と記述が変わり、記載内容の充実が図られている^{注1)}。保育所を利用している子どもの保護者だけではなく、子育て中の親のための包括的な支援の必要性が求められているからである。

「子育て支援」を行うためには、家庭支援が不可欠である。よって、保育所には障害のある子どもや特別な配慮を必要とする子どもたちを含めたすべての子どもを育てる家庭が対象となるだけでなく、地域の子育てを支援する相談事業なども展開されることが求められており、保育士には今後一層、子育て支援専門職としての役割が期待され

1) 豊岡短期大学

2) 関西福祉科学大学

3) 南海福祉看護専門学校

ていると言えよう。

これに関連して、保育士養成課程においては、「子育て支援」と「子ども家庭支援論」が新たな教科目となった。「子育て支援」は、これまでの「保育相談支援」「相談援助」を改正したものであって、「保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する」や「保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する」ことを目標にしている。また、「子ども家庭支援論」は、「保育相談支援」・「相談援助」・「家庭支援論」を改正した教科目であって、「子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する」、「保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する」、「子育て家庭に対する支援の展開と子どもの家庭支援の現状、課題について理解する」ことを目的にしている。

2. 「家庭支援」と「子育て支援」の関係

新「保育所保育指針」では、「第1章 総則」[1 保育所保育に関する基本原則]「(1) 保育所の役割」に「ウ 保育所は、入所する子どもを保育するとともに、家庭や地域の様々な社会資源との連携を図りながら、入所する子どもの保護者に対する支援及び地域の子育て家庭に対する支援等を行う役割を担うものである」と記され、地域の子育て家庭に対する支援を行うことが「保育所の役割」の1つであることが謳われている。保育現場や子育て支援の現場では、親子の関係を深めるためにも「家庭支援」の役割が強く求められていると言える。

3. 目的

保育士養成課程は4年制大学、短期大学、専門学校に設置されているが、これまで、専門学校生を対象として、家庭支援の学びと取り組みの必要性について検討した研究は見当たらない。そこで、

専門学校生に実施したアンケート調査の結果をもとに、「家庭支援への考えと学年との関連」「家庭支援への考えと職業体験の有無との関連」「家庭支援への考えと身近な子育て者の存在との関連」「家庭支援への考えと子育ての手伝い経験との関連」「家庭支援への考えと自身の子育て経験との関連」の5項目の関連性について分析を行い、保育士養成専門学校生が家庭支援の学びと取り組みに関してどのような考えを持っているかを把握することを目的とする。

4. 倫理的配慮

アンケート調査実施の際、調査によって得たデータについては個人を特定できないように統計的に処理を行うことを調査用紙に記した。

5. 調査方法

5-1 調査時期・調査対象

今回の調査では、2018（平成30）年7月に同じ養成課程で学んだ保育士養成専門学校生が家庭支援の学びと取り組みに関してどのような考えを持っているかを把握するために、A専門学校在籍中の学生を対象にアンケート調査を実施した。対象は、調査回答者は69名であったが、記入漏れを省いた56名を分析対象とした。

5-2 調査内容

厚生労働省（2007）（2015）、柏女・橋本（2008）、山縣・中谷（2013）、芝野・小野・平田（2013）、新川（2016）を参照して調査項目を作成した。調査内容は、①家庭支援（相談援助・保育相談支援）をするうえで、学ぶべきこと、②家庭支援にあたり保育士として取り組むべきこと、③なぜ今、家庭支援が必要だと思うか、であった。フェイスシートで、性別、学年、職場体験、子育て支援のボランティア経験の有無などを尋ねた。

なお、調査内容の妥当性を検討するため、B市の児童福祉課長とC地域子育て支援拠点の施設長の協力を得て、子育て支援の実践現場で家庭支援

を行う前に学んでおくこと、家庭支援にあたり保育士として取り組むべきこと、なぜ今家庭支援が必要かといった点について、事前に作成した本調査内容のたたき台を提示し、調査項目が妥当であるかどうか検討した。こうした複数回の協議を通して、たたき台を修正し、調査内容の妥当性を確保した。

5-3 分析手続き

「子どもの成長・発達を援助する技術」などの11項目を『家庭支援をする上で学ぶべきこと』、「保護者との情報共有」などの17項目を『家庭支援にあたり保育士としての取り組むべきこと』、「少子化」などの14項目は『なぜ今家庭支援が必要か』とし、クロス集計表を作成した。

6. 調査結果

6-1 回答者の性別・学年

回答者のうち、男子14人(25.0%)、女子42人(75.0%)で、学年では、1年生26人(46.4%)、2年生30人(53.6%)であった。

6-2 身近に子育てをしている人の存在

身近に子育てをしている人がいると答えた学生は、44人(78.6%)であったことから、これらの学生は身近に子育ての様子を目にしていると言え

る。回答者のなかには、子育てをしながら学んでいる学生も含まれている。

さらに、子育ての手伝いをしたことがあると答えた学生は、37人(66.1%)であった。

6-3 子育て支援のボランティア経験の有無

子育て支援のボランティアをした経験のある者は、6人(8.7%)であったが、46人(66.7%)の学生が、機会があればボランティアをしてみたいと思っている。

6-4 家庭支援をする上で学ぶべきことはなにか(上位3項目の複数選択式)

「家庭支援(相談援助・保育相談支援)をする上で学ぶべきことはなんですか」については、図1に示したとおりである。全体で最も多かったのが、「子どもの成長・発達を援助する技術」が28人(50.0%)おり、半数の学生が子どもの成長・発達を援助する技術が必要であると考えている。次に、「子ども理解」が22人(39.3%)、「子ども同士や保護者との関係を構築していく技術」が21人(37.5%)、「コミュニケーション力」が19人(33.9%)、「保護者等への相談援助の技術」が18人(32.1%)であった。

それぞれの項目の特色を確認すると、「子どもの成長・発達を援助する技術」「子ども理解」「子

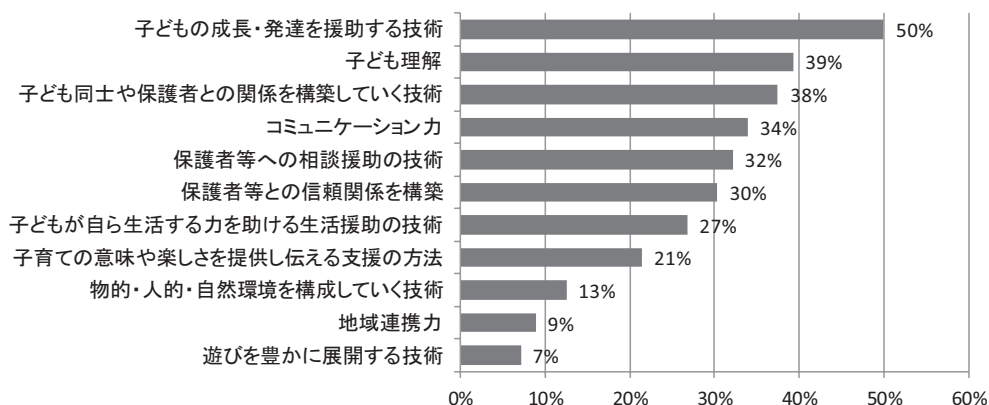


図1 家庭支援をする上で学ぶべきことはなにか (N=56, 上位3項目の複数選択式)

ども同士や保護者との関係を構築していく技術」は子どもの成長・発達や社会性の醸成に対する支援である。また、「子ども同士や保護者との関係を構築していく技術」「コミュニケーション力」「保護者等への相談援助の技術」「保護者等との信頼関係の構築」は保護者に対する関係構築・相談援助といった支援である。保育士を目指す学生たちが考える家庭支援をするうえでの学びのなかで、特に子どもへの発達支援と保護者への相談援助が重視されていると考えられる。

6-5 家庭支援にあたり保育士として取り組むべきことはなにか（上位5項目の複数選択式）

「家庭支援にあたり、保育士として取り組むべきことはなんですか」については、図2に示したとおりである。全体で最も多かったのが、「子育てに関する相談援助」が39人（69.6%）であった。次いで、「子育ての悩みに寄り添って聞いてくれるスタッフがいる場」と「居心地の良い場所をつくりだす」が同じ29人（51.8%）であった。また、

「子育て親子の交流の場の提供」は28人（50.0%）、「保護者との情報共有」は24人（42.9%）、「子育て経験や体験を通じて、親同士が学び合える場」は20人（35.7%）であった。

それぞれの項目の特色を確認すると、「子育てに関する相談援助」「子育ての悩みに寄り添って聞いてくれるスタッフがいる場」は相談援助・悩みの解決に焦点を当てた支援であり、「子育ての悩みに寄り添って聞いてくれるスタッフがいる場」「居心地の良い場所をつくりだす」「子育て親子の交流の場の提供」「子育て経験や体験を通じて、親同士が学び合える場」は環境構成と捉えられる。また、「子育て親子の交流の場の提供」「保護者との情報共有」「子育て経験や体験を通じて、親同士が学び合える場」は保育者や他の子育て親子との交流や学びと考えられる。

このことから、アンケートに回答した専門学校生は、保育士の家庭支援上の役割は、相談援助を行い、保育士や他の子育て親子が交流し、学ぶことができる場を提供することであると捉えていると考えられる。

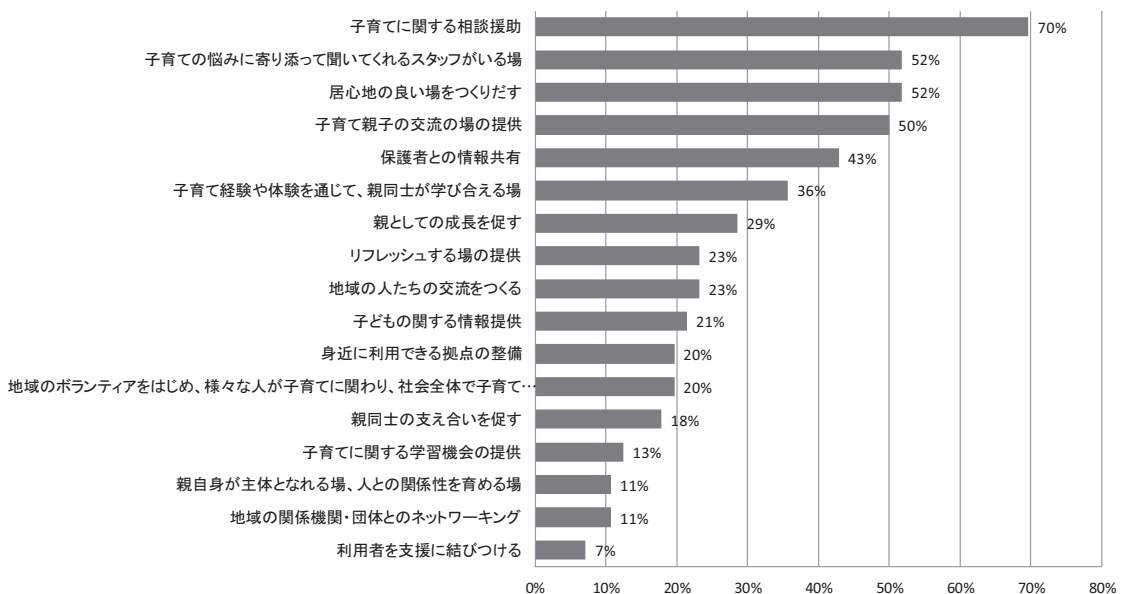


図2 家庭支援にあたり保育士として取り組むべきことはなにか（N=56, 上位5項目の複数選択式）

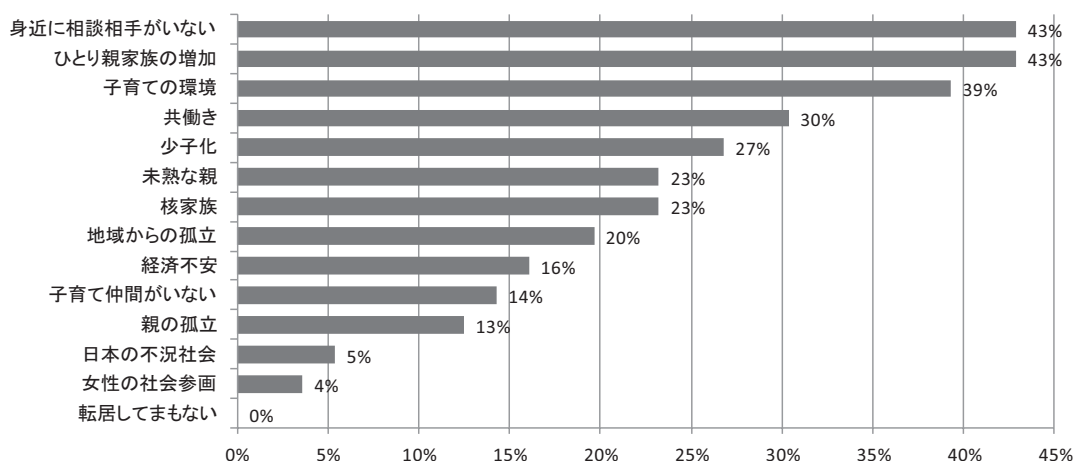


図3 家庭支援の必要性 (N=56,上位3項目の複数選択式)

6-6 家庭支援の必要性（上位3項目の複数選択式）

「家庭支援の必要性」については、図3に示したとおりである。全体で最も多かったのが、「身近に相談相手がない」と「ひとり親家族の増加」が24人（42.9%）であった。次いで、「子育ての環境」は22人（39.3%）であった。

「身近に相談相手がない」「ひとり親家族の増加」「子育ての環境」の上位3項目は20人を超えており、身近な相談相手の存在と家庭環境が子育てに影響すると考えている学生が多いと考えられる。

6-7 家庭支援への考えと学年との関連

家庭支援への考えと学年との関連を検討するため、クロス集計表を作成し、カイ二乗検定を行った。その結果を表1に示した。その結果、「家庭支援をする上で学ぶべきこと」の「コミュニケーション力」について5%水準の有意差がみられ、1年生のほうがより重視していた。また、「家庭支援にあたり保育士として取り組むべきこと」の「親自身が主体となれる場、人との関係性を育める場」については5%水準で有意差がみられ、2年生のほうがより重視していた。

6-8 家庭支援への考えと職業体験の有無との関連

家庭支援への考えと保育所での職業体験の有無との関連を検討するため、クロス集計表を作成し、カイ二乗検定を行った。その結果を表2に示した。その結果、職業体験の有無によって有意差が確認できる項目は見られなかった。

6-9 家庭支援への考えと身近な子育て者の存在との関連

家庭支援への考えと身近な子育て者の存在との関連を検討するため、クロス集計表を作成し、カイ二乗検定を行った。その結果を表3に示した。その結果、身近な子育て者の存在によって有意差が確認できる項目は見られなかった。

6-10 家庭支援への考えと子育ての手伝い経験との関連

家庭支援への考えと子育ての手伝い経験との関連を検討するため、クロス集計表を作成し、カイ二乗検定を行った。その結果を表4に示した。その結果、保育士として取り組むべきことの「保護者との情報共有」について5%水準で有意な差が見られ、手伝いの経験がある学生のほうがより保

表1 家庭支援への考えと学年との関連 (N=56)

	1年(n=26)		2年(n=30)		χ ² 値
	選択	非選択	選択	非選択	
家庭支援をする上で学ぶべきこと					
子どもの成長・発達を援助する技術	16 (61.5%)	10 (38.5%)	12 (40.0%)	18 (60.0%)	1.795
子どもが自ら生活する力を助ける生活援助の技術	6 (23.1%)	20 (76.9%)	9 (30.0%)	21 (70.0%)	0.079
物的・人的・自然環境を構成していく技術	3 (11.5%)	23 (88.5%)	4 (13.3%)	26 (86.7%)	0.000
遊びを豊かに展開する技術	3 (11.5%)	23 (88.5%)	1 (3.3%)	29 (96.7%)	0.504
子ども同士や保護者との関係を構築していく技術	8 (30.8%)	18 (69.2%)	13 (43.3%)	17 (56.7%)	0.479
保護者等への相談援助の技術	6 (23.1%)	20 (76.9%)	12 (40.0%)	18 (60.0%)	1.135
保護者等との信頼関係を構築	6 (23.1%)	20 (76.9%)	11 (36.7%)	19 (63.3%)	0.659
コミュニケーション力	13 (50.0%)	13 (50.0%)	6 (20.0%)	24 (80.0%)	4.334 *
地域連携力	2 (7.7%)	24 (92.3%)	3 (10.0%)	27 (90.0%)	0.000
子ども理解	12 (46.2%)	14 (53.8%)	10 (33.3%)	20 (66.7%)	0.498
子育ての意味や楽しさを提供し伝える支援の方法	3 (11.5%)	23 (88.5%)	9 (30.0%)	21 (70.0%)	1.830
家庭支援に当たり保育士として取り組むべきこと					
保護者との情報共有	12 (46.2%)	14 (53.8%)	12 (40.0%)	18 (60.0%)	0.037
子どもの関する情報提供	6 (23.1%)	20 (76.9%)	6 (20.0%)	24 (80.0%)	0.000
子育てに関する学習機会の提供	3 (11.5%)	23 (88.5%)	4 (13.3%)	26 (86.7%)	0.000
子育てに関する相談援助	16 (61.5%)	10 (38.5%)	23 (76.7%)	7 (23.3%)	0.877
子育てで親子の交流の場の提供	11 (42.3%)	15 (57.7%)	17 (56.7%)	13 (43.3%)	0.646
利用者を支援に結びつける	2 (7.7%)	24 (92.3%)	2 (6.7%)	28 (93.3%)	0.000
居心地の良い場をつくりだす	15 (57.7%)	11 (42.3%)	14 (46.7%)	16 (53.3%)	0.308
親としての成長を促す	6 (23.1%)	20 (76.9%)	10 (33.3%)	20 (66.7%)	0.303
親同士の支え合いを促す	3 (11.5%)	23 (88.5%)	7 (23.3%)	23 (76.7%)	0.639
地域の人たちの交流をつくる	8 (30.8%)	18 (69.2%)	5 (16.7%)	25 (83.3%)	0.864
地域の関係機関・団体とのネットワーキング	3 (11.5%)	23 (88.5%)	3 (10.0%)	27 (90.0%)	0.000
子育てで経験や体験を通じて、親同士が学び合える場	10 (38.5%)	16 (61.5%)	10 (33.3%)	20 (66.7%)	0.014
親自身が主体となれる場、人との関係性を育める場	0 (0.0%)	26 (100.0%)	6 (20.0%)	24 (80.0%)	3.921 *
子育ての悩みに寄り添って聞いてくれるスタッフがいる場	13 (50.0%)	13 (50.0%)	16 (53.3%)	14 (46.7%)	0.000
地域のボランティアをはじめ、様々な人が子育てに関わり、社会全体で子育てを応援する場	6 (23.1%)	20 (76.9%)	5 (16.7%)	25 (83.3%)	0.070
リフレッシュする場の提供	9 (34.6%)	17 (65.4%)	4 (13.3%)	26 (86.7%)	2.446
身近に利用できる拠点の整備	7 (26.9%)	19 (73.1%)	4 (13.3%)	26 (86.7%)	0.882
なぜ今家庭支援が必要か					
少子化	8 (30.8%)	18 (69.2%)	7 (23.3%)	23 (76.7%)	0.105
核家族	6 (23.1%)	20 (76.9%)	7 (23.3%)	23 (76.7%)	0.000
子育ての環境	11 (42.3%)	15 (57.7%)	11 (36.7%)	19 (63.3%)	0.025
地域からの孤立	6 (23.1%)	20 (76.9%)	5 (16.7%)	25 (83.3%)	0.070
共働き	7 (26.9%)	19 (73.1%)	10 (33.3%)	20 (66.7%)	0.052
ひとり親家族の増加	11 (42.3%)	15 (57.7%)	13 (43.3%)	17 (56.7%)	0.000
女性の社会参画	0 (0.0%)	26 (100.0%)	2 (6.7%)	28 (93.3%)	0.383
日本の不況社会	0 (0.0%)	26 (100.0%)	3 (10.0%)	27 (90.0%)	1.129
身近に相談相手がない	11 (42.3%)	15 (57.7%)	13 (43.3%)	17 (56.7%)	0.000
子育て仲間がない	3 (11.5%)	23 (88.5%)	5 (16.7%)	25 (83.3%)	0.027
親の孤立	3 (11.5%)	23 (88.5%)	4 (13.3%)	26 (86.7%)	0.000
経済不安	4 (15.4%)	22 (84.6%)	5 (16.7%)	25 (83.3%)	0.000
転居してまもない	0 (0.0%)	26 (100.0%)	0 (0.0%)	30 (100.0%)	-
未熟な親	8 (30.8%)	18 (69.2%)	5 (16.7%)	25 (83.3%)	0.864

*: p<.05, **: p<.01

護者との情報共有を重視していた。

6-11 家庭支援への考えと自身の子育て経験との関連

家庭支援への考えと自身の子育て経験との関連を検討するため、クロス集計表を作成し、カイ二乗検定を行った。その結果を表5に示した。その結果、今家庭支援が必要であるとされる理由の一つとして、今回のアンケートでは「共働き」と「未熟な親」の項目のみ、5%水準で有意な差が

見られた。例えば、山縣(2002)は、「親子の信頼および愛着関係の基礎形成が不安定なかで、親としての成熟度はますます低下し、“親になりきれていない親”が、より多く出現することになる。」と述べている。本研究は、よりよい親子関係を形成するための家庭支援の重要性を子育て経験のある学生の方がより考えていることを示唆した。

7. まとめ

本研究では、保育士養成専門学校生が家庭支援

表2 家庭支援への考えと職業体験の有無との関連 (N=56)

	体験あり(n=32)		体験なし(n=24)		χ ² 値
	yes	no	yes	no	
家庭支援をする上で学ぶべきこと					
子どもの成長・発達を援助する技術	12 (37.5%)	20 (62.5%)	16 (66.7%)	8 (33.3%)	3.573
子どもが自ら生活する力を助ける生活援助の技術	10 (31.3%)	22 (68.8%)	5 (20.8%)	19 (79.2%)	0.321
物的・人的・自然環境を構成していく技術	4 (12.5%)	28 (87.5%)	3 (12.5%)	21 (87.5%)	0.000
遊びを豊かに展開する技術	1 (3.1%)	31 (96.9%)	3 (12.5%)	21 (87.5%)	0.679
子ども同士や保護者との関係を構築していく技術	11 (34.4%)	21 (65.6%)	10 (41.7%)	14 (58.3%)	0.078
保護者等への相談援助の技術	11 (34.4%)	21 (65.6%)	7 (29.2%)	17 (70.8%)	0.015
保護者等との信頼関係を構築	9 (28.1%)	23 (71.9%)	8 (33.3%)	16 (66.7%)	0.016
コミュニケーション力	10 (31.3%)	22 (68.8%)	9 (37.5%)	15 (62.5%)	0.041
地域連携力	4 (12.5%)	28 (87.5%)	1 (4.2%)	23 (95.8%)	0.371
子ども理解	14 (43.8%)	18 (56.3%)	8 (33.3%)	16 (66.7%)	0.264
子育ての意味や楽しさを提供し伝える支援の方法	10 (31.3%)	22 (68.8%)	2 (8.3%)	22 (91.7%)	3.025
家庭支援にあたり保育士として取り組むべきこと					
保護者との情報共有	11 (34.4%)	21 (65.6%)	13 (54.2%)	11 (45.8%)	1.460
子どもの関する情報提供	6 (18.8%)	26 (81.3%)	6 (25.0%)	18 (75.0%)	0.055
子育てに関する学習機会の提供	2 (6.3%)	30 (93.8%)	5 (20.8%)	19 (79.2%)	1.500
子育てに関する相談援助	20 (62.5%)	12 (37.5%)	19 (79.2%)	5 (20.8%)	1.100
子育て親子の交流の場の提供	14 (43.8%)	18 (56.3%)	14 (58.3%)	10 (41.7%)	0.656
利用者を支援に結びつける	3 (9.4%)	29 (90.6%)	1 (4.2%)	23 (95.8%)	0.050
居心地の良い場をつくり出す	18 (56.3%)	14 (43.8%)	11 (45.8%)	13 (54.2%)	0.252
親としての成長を促す	9 (28.1%)	23 (71.9%)	7 (29.2%)	17 (70.8%)	0.000
親同士の支え合いを促す	6 (18.8%)	26 (81.3%)	4 (16.7%)	20 (83.3%)	0.000
地域の人たちの交流をつくる	9 (28.1%)	23 (71.9%)	4 (16.7%)	20 (83.3%)	0.470
地域の関係機関・団体とのネットワーク	2 (6.3%)	30 (93.8%)	4 (16.7%)	20 (83.3%)	0.657
子育て経験や体験を通じて、親同士が学び合える場	13 (40.6%)	19 (59.4%)	7 (29.2%)	17 (70.8%)	0.365
親自身が主体となる場、人との関係性を育める場	4 (12.5%)	28 (87.5%)	2 (8.3%)	22 (91.7%)	0.004
子育ての悩みに寄り添って聞いてくれるスタッフがいる場	17 (53.1%)	15 (46.9%)	12 (50.0%)	12 (50.0%)	0.000
地域のボランティアをはじめ、様々な人が子育てに関わり、社会全体で子育てを応援する場	8 (25.0%)	24 (75.0%)	3 (12.5%)	21 (87.5%)	0.681
リフレッシュする場の提供	9 (28.1%)	23 (71.9%)	4 (16.7%)	20 (83.3%)	0.470
身近に利用できる拠点の整備	7 (21.9%)	25 (78.1%)	4 (16.7%)	20 (83.3%)	0.021
なぜ今家庭支援が必要か					
少子化	9 (28.1%)	23 (71.9%)	6 (25.0%)	18 (75.0%)	0.000
核家族	4 (12.5%)	28 (87.5%)	9 (37.5%)	15 (62.5%)	3.508
子育ての環境	13 (40.6%)	19 (59.4%)	9 (37.5%)	15 (62.5%)	0.000
地域からの孤立	5 (15.6%)	27 (84.4%)	6 (25.0%)	18 (75.0%)	0.285
共働き	10 (31.3%)	22 (68.8%)	7 (29.2%)	17 (70.8%)	0.000
ひとり親家族の増加	15 (46.9%)	17 (53.1%)	9 (37.5%)	15 (62.5%)	0.184
女性の社会参画	2 (6.3%)	30 (93.8%)	0 (0.0%)	24 (100.0%)	0.270
日本の不況社会	1 (3.1%)	31 (96.9%)	2 (8.3%)	22 (91.7%)	0.066
身近に相談相手がない	12 (37.5%)	20 (62.5%)	12 (50.0%)	12 (50.0%)	0.439
子育て仲間がない	5 (15.6%)	27 (84.4%)	3 (12.5%)	21 (87.5%)	0.000
親の孤立	6 (18.8%)	26 (81.3%)	1 (4.2%)	23 (95.8%)	1.500
経済不安	7 (21.9%)	25 (78.1%)	2 (8.3%)	22 (91.7%)	0.996
転居してもない	0 (0.0%)	32 (100.0%)	0 (0.0%)	24 (100.0%)	-
未熟な親	7 (21.9%)	25 (78.1%)	6 (25.0%)	18 (75.0%)	0.000

n.s : no significiance

に関して、どのような考えを持っているかを知るためにアンケート調査を実施した。今回の調査から、家庭支援に関して学ぶべきこととして、「子どもの成長・発達を援助する技術」「子ども理解」「子ども同士や保護者との関係を構築していく技術」を上位に挙げていた。このことから、子どもの理解や親子関係を調整する支援について学ぶことが重要であると考えていることが明らかになった。

また、家庭支援にあたって、保育士として取り

組むべきこととして、「子育てに関する相談援助」「子育ての悩みに寄り添って聞いてくれるスタッフがいる場」「居心地の良い場をつくり出す」「子育て親子の交流の場の提供」「保護者との情報共有」「子育て経験や体験を通じて、親同士が学び合える場」を上位に挙げていた。このことから、保育士の家庭支援上の役割は、相談援助を行い、保育士や子育て親子と交流し、保護者と情報を共有しながら学び合う場を提供することが大切であると考えていることがわかった。

表3 家庭支援への考えと身近な子育て者の存在との関連 (N=56)

	いる(n=44)		いない(n=12)		χ ² 値
	yes	no	yes	no	
家庭支援をする上で学ぶべきこと					
子どもの成長・発達を援助する技術	21 (47.7%)	23 (52.3%)	7 (58.3%)	5 (41.7%)	0.106
子どもが自ら生活する力を助ける生活援助の技術	13 (29.5%)	31 (70.5%)	2 (16.7%)	10 (83.3%)	0.276
物的・人的・自然環境を構成していく技術	5 (11.4%)	39 (88.6%)	2 (16.7%)	10 (83.3%)	0.000
遊びを豊かに展開する技術	4 (9.1%)	40 (90.9%)	0 (0.0%)	12 (100.0%)	0.204
子ども同士や保護者との関係を構築していく技術	14 (31.8%)	30 (68.2%)	7 (58.3%)	5 (41.7%)	1.810
保護者等への相談援助の技術	14 (31.8%)	30 (68.2%)	4 (33.3%)	8 (66.7%)	0.000
保護者等との信頼関係を構築	13 (29.5%)	31 (70.5%)	4 (33.3%)	8 (66.7%)	0.000
コミュニケーション力	15 (34.1%)	29 (65.9%)	4 (33.3%)	8 (66.7%)	0.000
地域連携力	5 (11.4%)	39 (88.6%)	0 (0.0%)	12 (100.0%)	0.426
子ども理解	16 (36.4%)	28 (63.6%)	6 (50.0%)	6 (50.0%)	0.275
子育ての意味や楽しさを提供し伝える支援の方法	12 (27.3%)	32 (72.7%)	0 (0.0%)	12 (100.0%)	2.703
家庭支援にあたり保育士として取り組むべきこと					
保護者との情報共有	20 (45.5%)	24 (54.5%)	4 (33.3%)	8 (66.7%)	0.179
子どもの関する情報提供	11 (25.0%)	33 (75.0%)	1 (8.3%)	11 (91.7%)	0.723
子育てに関する学習機会の提供	6 (13.6%)	38 (86.4%)	1 (8.3%)	11 (91.7%)	0.000
子育てに関する相談援助	33 (75.0%)	11 (25.0%)	6 (50.0%)	6 (50.0%)	1.730
子育てで親子の交流の場の提供	22 (50.0%)	22 (50.0%)	6 (50.0%)	6 (50.0%)	0.000
利用者を支援に結びつける	2 (4.5%)	42 (95.5%)	2 (16.7%)	10 (83.3%)	0.661
居心地の良い場をつくりだす	24 (54.5%)	20 (45.5%)	5 (41.7%)	7 (58.3%)	0.217
親としての成長を促す	13 (29.5%)	31 (70.5%)	3 (25.0%)	9 (75.0%)	0.000
親同士の支え合いを促す	7 (15.9%)	37 (84.1%)	3 (25.0%)	9 (75.0%)	0.092
地域の人たちの交流をつくる	9 (20.5%)	35 (79.5%)	4 (33.3%)	8 (66.7%)	0.304
地域の関係機関・団体とのネットワーク	5 (11.4%)	39 (88.6%)	1 (8.3%)	11 (91.7%)	0.000
子育て経験や体験を通じて、親同士が学び合える場	15 (34.1%)	29 (65.9%)	5 (41.7%)	7 (58.3%)	0.021
親自身が主体となれる場、人との関係性を育める場	5 (11.4%)	39 (88.6%)	1 (8.3%)	11 (91.7%)	0.000
子育ての悩みに寄り添って聞いてくれるスタッフがいる場	22 (50.0%)	22 (50.0%)	7 (58.3%)	5 (41.7%)	0.035
地域のボランティアをはじめ、様々な人が子育てに関わり、社会全体で子育てを応援する場	9 (20.5%)	35 (79.5%)	2 (16.7%)	10 (83.3%)	0.000
リフレッシュする場の提供	8 (18.2%)	36 (81.8%)	5 (41.7%)	7 (58.3%)	1.749
身近に利用できる拠点の整備	7 (15.9%)	37 (84.1%)	4 (33.3%)	8 (66.7%)	0.878
なぜ今家庭支援が必要か					
少子化	12 (27.3%)	32 (72.7%)	3 (25.0%)	9 (75.0%)	0.000
核家族	12 (27.3%)	32 (72.7%)	1 (8.3%)	11 (91.7%)	0.984
子育ての環境	16 (36.4%)	28 (63.6%)	6 (50.0%)	6 (50.0%)	0.275
地域からの孤立	8 (18.2%)	36 (81.8%)	3 (25.0%)	9 (75.0%)	0.014
共働き	13 (29.5%)	31 (70.5%)	4 (33.3%)	8 (66.7%)	0.000
ひとり親家族の増加	20 (45.5%)	24 (54.5%)	4 (33.3%)	8 (66.7%)	0.179
女性の社会参画	2 (4.5%)	42 (95.5%)	0 (0.0%)	12 (100.0%)	0.000
日本の不況社会	2 (4.5%)	42 (95.5%)	1 (8.3%)	11 (91.7%)	0.000
身近に相談相手がない	18 (40.9%)	26 (59.1%)	6 (50.0%)	6 (50.0%)	0.055
子育て仲間がない	7 (15.9%)	37 (84.1%)	1 (8.3%)	11 (91.7%)	0.040
親の孤立	5 (11.4%)	39 (88.6%)	2 (16.7%)	10 (83.3%)	0.000
経済不安	7 (15.9%)	37 (84.1%)	2 (16.7%)	10 (83.3%)	0.000
転居してもない	0 (0.0%)	44 (100.0%)	0 (0.0%)	12 (100.0%)	-
未熟な親	10 (22.7%)	34 (77.3%)	3 (25.0%)	9 (75.0%)	0.000

n.s : no significance

さらに、家庭支援の必要性に関しては、「身近に相談相手がない」「ひとり親家族の増加」「子育ての環境」が上位3項目であった。このことは、身近な相談相手の存在の減少やひとり親家族の増加など家庭環境の変化が、子育て家庭への支援の根拠として考えている学生の多いことを示唆した。

そして、家庭支援の考えを学年との関連から検討した結果、「コミュニケーション力」については、1年生の方が2年生よりも重視し、「親自身が主体となれる場、人との関係性を育める場」に

ついては、2年生の方が1年生よりも重視していることがわかった。この結果から、学年の進行につれて、コミュニケーション力といった一般的な知識・技術から、親自身が主体となれる場、人との関係性を育める場を作るといった保育独自の専門的知識・技術へと関心を移していくことが示唆された。

加えて、家庭支援への考えと子育ての手伝い経験との関連を検討した結果、子育ての手伝い経験のある方が、保護者との情報共有をより重要と考

表4 家庭支援への考えと子育ての手伝い経験との関連 (N=56)

	ある(n=37)		ない(n=19)		χ ² 値
	yes	no	yes	no	
家庭支援をする上で学ぶべきこと					
子どもの成長・発達を援助する技術	22 (59.5%)	15 (40.5%)	6 (31.6%)	13 (68.4%)	2.868
子どもが自ら生活する力を助ける生活援助の技術	7 (18.9%)	30 (81.1%)	8 (42.1%)	11 (57.9%)	2.361
物的・人的・自然環境を構成していく技術	5 (13.5%)	32 (86.5%)	2 (10.5%)	17 (89.5%)	0.000
遊びを豊かに展開する技術	3 (8.1%)	34 (91.9%)	1 (5.3%)	18 (94.7%)	0.000
子ども同士や保護者との関係を構築していく技術	13 (35.1%)	24 (64.9%)	8 (42.1%)	11 (57.9%)	0.048
保護者等への相談援助の技術	10 (27.0%)	27 (73.0%)	8 (42.1%)	11 (57.9%)	0.709
保護者等との信頼関係を構築	10 (27.0%)	27 (73.0%)	7 (36.8%)	12 (63.2%)	0.202
コミュニケーション力	14 (37.8%)	23 (62.2%)	5 (26.3%)	14 (73.7%)	0.318
地域連携力	3 (8.1%)	34 (91.9%)	2 (10.5%)	17 (89.5%)	0.000
子ども理解	15 (40.5%)	22 (59.5%)	7 (36.8%)	12 (63.2%)	0.000
子育ての意味や楽しさを提供し伝える支援の方法	9 (24.3%)	28 (75.7%)	3 (15.8%)	16 (84.2%)	0.154
家庭支援にあたり保育士として取り組むべきこと					
保護者との情報共有	19 (51.4%)	18 (48.6%)	5 (26.3%)	14 (73.7%)	2.272 *
子どもの関する情報提供	8 (21.6%)	29 (78.4%)	4 (21.1%)	15 (78.9%)	0.000
子育てに関する学習機会の提供	6 (16.2%)	31 (83.8%)	1 (5.3%)	18 (94.7%)	0.558
子育てに関する相談援助	26 (70.3%)	11 (29.7%)	13 (68.4%)	6 (31.6%)	0.000
子育てで親子の交流の場の提供	15 (40.5%)	22 (59.5%)	13 (68.4%)	6 (31.6%)	2.868
利用者を支援に結びつける	3 (8.1%)	34 (91.9%)	1 (5.3%)	18 (94.7%)	0.000
居心地の良い場をつくりだす	21 (56.8%)	16 (43.2%)	8 (42.1%)	11 (57.9%)	0.572
親としての成長を促す	10 (27.0%)	27 (73.0%)	6 (31.6%)	13 (68.4%)	0.002
親同士の支え合いを促す	8 (21.6%)	29 (78.4%)	2 (10.5%)	17 (89.5%)	0.433
地域の人たちの交流をつくる	9 (24.3%)	28 (75.7%)	4 (21.1%)	15 (78.9%)	0.000
地域の関係機関・団体とのネットワーク	4 (10.8%)	33 (89.2%)	2 (10.5%)	17 (89.5%)	0.000
子育てで経験や体験を通じて、親同士が学び合える場	11 (29.7%)	26 (70.3%)	9 (47.4%)	10 (52.6%)	1.020
親自身が主体となれる場、人との関係性を育める場	3 (8.1%)	34 (91.9%)	3 (15.8%)	16 (84.2%)	0.179
子育ての悩みに寄り添って聞いてくれるスタッフがいる場	17 (45.9%)	20 (54.1%)	12 (63.2%)	7 (36.8%)	0.880
地域のボランティアをはじめ、様々な人が子育てに関わり、社会全体で子育てを応援する場	9 (24.3%)	28 (75.7%)	2 (10.5%)	17 (89.5%)	0.766
リフレッシュする場の提供	8 (21.6%)	29 (78.4%)	5 (26.3%)	14 (73.7%)	0.004
身近に利用できる拠点の整備	6 (16.2%)	31 (83.8%)	5 (26.3%)	14 (73.7%)	0.298
なぜ今家庭支援が必要か					
少子化	12 (32.4%)	25 (67.6%)	3 (15.8%)	16 (84.2%)	1.026
核家族	8 (21.6%)	29 (78.4%)	5 (26.3%)	14 (73.7%)	0.004
子育ての環境	12 (32.4%)	25 (67.6%)	10 (52.6%)	9 (47.4%)	1.384
地域からの孤立	8 (21.6%)	29 (78.4%)	3 (15.8%)	16 (84.2%)	0.027
共働き	13 (35.1%)	24 (64.9%)	4 (21.1%)	15 (78.9%)	0.606
ひとり親家族の増加	17 (45.9%)	20 (54.1%)	7 (36.8%)	12 (63.2%)	0.134
女性の社会参画	1 (2.7%)	36 (97.3%)	1 (5.3%)	18 (94.7%)	0.000
日本の不況社会	2 (5.4%)	35 (94.6%)	1 (5.3%)	18 (94.7%)	0.000
身近に相談相手がない	13 (35.1%)	24 (64.9%)	11 (57.9%)	8 (42.1%)	1.807
子育て仲間がない	5 (13.5%)	32 (86.5%)	3 (15.8%)	16 (84.2%)	0.000
親の孤立	4 (10.8%)	33 (89.2%)	3 (15.8%)	16 (84.2%)	0.011
経済不安	7 (18.9%)	30 (81.1%)	2 (10.5%)	17 (89.5%)	0.181
転居してもない	0 (0.0%)	37 (100.0%)	0 (0.0%)	19 (100.0%)	-
未熟な親	9 (24.3%)	28 (75.7%)	4 (21.1%)	15 (78.9%)	0.000

*: p<.05, **: p<.01

えていることがわかった。また、家庭支援への考えと自身の子育て経験との関連を検討した結果、親の自覚の足りない保護者への支援をより重要と考えることがわかった。これにより、子育ての手伝い経験は、子ども・子育ての情報共有の高い認識に寄与し、実際に子どもを育てる経験は、未熟な親との接触経験や存在を知ることによって、その支援の必要性を認識することに繋がっているのではないかと推察された。

そして、保護者との情報共有や、親としての自

覚が足りない親に対するきめ細やかな支援については、経験があるほどその必要性を実感していたため、体験的な学びを交えながら、社会的にその必要性が高まっている家庭への支援についても保育士養成の中で取り組んでいく必要があると考えられた。

そのため、子ども理解、親子関係を調整する支援、相談援助、交流の場の提供、情報共有、子育て環境の変化について学ぶとともに、2年生においては、親自身が主体となれる場、人との関係性

表5 家庭支援への考えと自身の子育て経験との関連 (N=56)

	ある(n=9)		ない(n=47)		χ ² 値
	yes	no	yes	no	
家庭支援をする上で学ぶべきこと					
子どもの成長・発達を援助する技術	5 (55.6%)	4 (44.4%)	23 (48.9%)	24 (51.1%)	0.000
子どもが自ら生活する力を助ける生活援助の技術	0 (0.0%)	9 (100.0%)	15 (31.9%)	32 (68.1%)	2.465
物的・人的・自然環境を構成していく技術	1 (11.1%)	8 (88.9%)	6 (12.8%)	41 (87.2%)	0.000
遊びを豊かに展開する技術	2 (22.2%)	7 (77.8%)	2 (4.3%)	45 (95.7%)	1.466
子ども同士や保護者との関係を構築していく技術	5 (55.6%)	4 (44.4%)	16 (34.0%)	31 (66.0%)	0.715
保護者等への相談援助の技術	3 (33.3%)	6 (66.7%)	15 (31.9%)	32 (68.1%)	0.000
保護者等との信頼関係を構築	3 (33.3%)	6 (66.7%)	14 (29.8%)	33 (70.2%)	0.000
コミュニケーション力	1 (11.1%)	8 (88.9%)	18 (38.3%)	29 (61.7%)	1.425
地域連携力	1 (11.1%)	8 (88.9%)	4 (8.5%)	43 (91.5%)	0.000
子ども理解	4 (44.4%)	5 (55.6%)	18 (38.3%)	29 (61.7%)	0.000
子育ての意味や楽しさを提供し伝える支援の方法	2 (22.2%)	7 (77.8%)	10 (21.3%)	37 (78.7%)	0.000
家庭支援にあたり保育士として取り組むべきこと					
保護者との情報共有	5 (55.6%)	4 (44.4%)	19 (40.4%)	28 (59.6%)	0.223
子どもの関する情報提供	3 (33.3%)	6 (66.7%)	9 (19.1%)	38 (80.9%)	0.257
子育てに関する学習機会の提供	2 (22.2%)	7 (77.8%)	5 (10.6%)	42 (89.4%)	0.170
子育てに関する相談援助	7 (77.8%)	2 (22.2%)	32 (68.1%)	15 (31.9%)	0.034
子育てで親子の交流の場の提供	4 (44.4%)	5 (55.6%)	24 (51.1%)	23 (48.9%)	0.000
利用者支援に結びつける	2 (22.2%)	7 (77.8%)	2 (4.3%)	45 (95.7%)	1.466
居心地の良い場をつくり出す	4 (44.4%)	5 (55.6%)	25 (53.2%)	22 (46.8%)	0.014
親としての成長を促す	4 (44.4%)	5 (55.6%)	12 (25.5%)	35 (74.5%)	0.559
親同士の支え合いを促す	0 (0.0%)	9 (100.0%)	10 (21.3%)	37 (78.7%)	1.106
地域の人たちの交流をつくる	0 (0.0%)	9 (100.0%)	13 (27.7%)	34 (72.3%)	1.876
地域の関係機関・団体とのネットワーク	2 (22.2%)	7 (77.8%)	4 (8.5%)	43 (91.5%)	0.397
子育てで経験や体験を通じて、親同士が学び合える場	1 (11.1%)	8 (88.9%)	19 (40.4%)	28 (59.6%)	1.695
親自身が主体となれる場、人との関係性を育める場	0 (0.0%)	9 (100.0%)	6 (12.8%)	41 (87.2%)	0.298
子育ての悩みに寄り添って聞いてくれるスタッフがいる場	7 (77.8%)	2 (22.2%)	22 (46.8%)	25 (53.2%)	1.794
地域のボランティアをはじめ、様々な人が子育てに関わり、社会全体で子育てを応援する場	1 (11.1%)	8 (88.9%)	10 (21.3%)	37 (78.7%)	0.060
リフレッシュする場の提供	3 (33.3%)	6 (66.7%)	10 (21.3%)	37 (78.7%)	0.125
身近に利用できる拠点の整備	0 (0.0%)	9 (100.0%)	11 (23.4%)	36 (76.6%)	1.348
なぜ今家庭支援が必要か					
少子化	1 (11.1%)	8 (88.9%)	14 (29.8%)	33 (70.2%)	0.560
核家族	3 (33.3%)	6 (66.7%)	10 (21.3%)	37 (78.7%)	0.125
子育ての環境	3 (33.3%)	6 (66.7%)	19 (40.4%)	28 (59.6%)	0.001
地域からの孤立	4 (44.4%)	5 (55.6%)	7 (14.9%)	40 (85.1%)	2.516
共働き	0 (0.0%)	9 (100.0%)	17 (36.2%)	30 (63.8%)	3.120 *
ひとり親家族の増加	4 (44.4%)	5 (55.6%)	20 (42.6%)	27 (57.4%)	0.000
女性の社会参画	0 (0.0%)	9 (100.0%)	2 (4.3%)	45 (95.7%)	0.000
日本の不況社会	0 (0.0%)	9 (100.0%)	3 (6.4%)	44 (93.6%)	0.000
身近に相談相手がない	3 (33.3%)	6 (66.7%)	21 (44.7%)	26 (55.3%)	0.069
子育て仲間がない	2 (22.2%)	7 (77.8%)	6 (12.8%)	41 (87.2%)	0.050
親の孤立	2 (22.2%)	7 (77.8%)	5 (10.6%)	42 (89.4%)	0.170
経済不安	0 (0.0%)	9 (100.0%)	9 (19.1%)	38 (80.9%)	0.879
転居してまもない	0 (0.0%)	9 (100.0%)	0 (0.0%)	47 (100.0%)	-
未熟な親	5 (55.6%)	4 (44.4%)	8 (17.0%)	39 (83.0%)	4.316 *

* : p<.05 ** : p<.01

を育める場を作るといった保育士独自の専門性を活かした家庭支援を学び合えるようにするべきであることが示唆された。

本研究では明らかになっていない家庭支援の専門性を高められる具体的な内容について調査することは今後の研究課題である。

注)

1) 厚生労働省『保育所保育指針の改定について』2017

参考文献

1. 柏女霊峰・橋本真紀編『保育者の保護者支援－保育指導の原理と技術』フレーベル館、2008
2. 厚生労働省『地域子育て支援拠点事業実施のご案内(実施ガイド)』厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課少子化対策企画室、2007
3. 厚生労働省「地域子育て支援拠点事業の実施について」(雇児発0529第18号、平成26年5月29日、一次改正雇児発0521第13号、平成27年5月21日)、2015
4. 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレー

ベル館, 2018

5. 松原康雄・坪洋一・金子充編『基本保育士シリーズ ④社会福祉』中央法規, 2015
6. 文部科学省・厚生労働省・内閣府編『平成29年告示幼稚園教育要領保育所保育指針幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>』チャイルド本社, 2018
7. 新川泰弘編『地域子育て支援拠点におけるファミリーソーシャルワークの学びと省察』相川書房, 2016
8. 芝野松次郎・小野セレストア麻耶・平田祐子編『ソーシャルワークとしての子育て支援コーディネーター子育てコンシェルジュのための実践モデル開発』関西学院大学出版会, 2013
9. 新保幸男・小林理編『家庭支援論』中央法規, 2016
10. 山縣文治監修, 中谷奈津子編『住民主体の地域子育て支援—全国調査にみる「子育てネットワーク」—』明石書店, 2013
11. 山縣文治編『現代保育論』ミネルヴァ書房, 2002

「保育士養成校における家庭支援に関する」アンケート調査

調査ご協力をお願い

「保育所保育指針」の改定に伴い、「子育て支援」の必要性の強調と工夫が言われています。そんななかで、保育士を目指すみなさんが「子育て支援」「家庭支援」に関し、どのような考えを持っているかを知ることにより、子育て支援の役割等を考えていくうえで参考とするため、この調査を実施します。

記入にあたってのお願い

調査票は無記名で、お答えはすべて統計的に処理しますので、学校および個人名が特定されることはありません。

回答にあたっては当てはまる番号を○で囲むか、具体的に記入してください。

質問によっては、○の数の指定があるので、その範囲内で答えてください。

Q10. 家庭支援（相談援助・保育相談支援）をする上で、学ぶべきことはなんですか。

下記より、上位3つを選んでください。

- ① 子どもの成長・発達を援助する技術
- ② 子どもが自ら生活する力を助ける生活援助の技術
- ③ 物的・人的・自然環境を構成していく技術
- ④ 遊びを豊かに展開する技術
- ⑤ 子ども同士や保護者との関係を構築していく技術
- ⑥ 保護者等への相談助言の技術
- ⑦ 保護者との信頼関係を構築
- ⑧ コミュニケーション力
- ⑨ 地域連携力
- ⑩ 子ども理解
- ⑪ 子育ての意味や楽しさを提供し伝える支援の方法

Q11. 家庭支援にあたり、保育士として取り組むべきことはなんですか。下記より、上位5つを選んでください。

- ① 保護者との情報共有
- ② 子どもに関する情報提供
- ③ 子育てに関する学習機会の提供
- ④ 子育てに関する相談援助
- ⑤ 子育て親子の交流の場の提供
- ⑥ 利用者を支援に結びつける
- ⑦ 居心地の良い場をつくりだす
- ⑧ 親としての成長を促す
- ⑨ 親同士の支えあいを促す
- ⑩ 地域の人たちの交流をつくる
- ⑪ 地域の関係機関・団体とのネットワークング
- ⑫ 子育て経験や体験を通じて、親同士が学び合える場
- ⑬ 親自身が主体となれる場、人との関係性を育める場
- ⑭ 子育ての悩みに寄り添って聞いてくれるスタッフがいる場
- ⑮ 地域のボランティアをはじめ、様々な人が子育てに関わり、社会全体で子育てを応援する場
- ⑯ リフレッシュできる場の提供
- ⑰ 身近に利用できる拠点の整備

Q12. なぜ、今、家庭支援が必要だと思いますか。上位3つを選んでください。

- ① 少子化
- ② 核家族
- ③ 子育ての環境
- ④ 地域からの孤立
- ⑤ 共働き
- ⑥ ひとり親家庭の増加
- ⑦ 女性の社会参画
- ⑧ 日本の不況社会
- ⑨ 身近に相談相手がいない
- ⑩ 子育て仲間がいない
- ⑪ 親の孤立
- ⑫ 経済不安
- ⑬ 転居してまもない
- ⑭ 未熟な親

ありがとうございました。